

# 梅若万三郎家所蔵写真乾板のデジタル化について

Digitalized Images of Photographic Plates Owned by the Manzaburo  
Umewaka's Family

椋山女学園大学文化情報学部教授

飯塚 恵理人  
Erito lizuka

## はじめに

梅若万三郎家には能に関係する乾板が300枚ほど保存されている。梅若研能会の八田達弥先生に仲介して頂き、梅若万三郎先生にデジタル化の許可を頂いたので、今年度より椋山女学園大学に研究予算を申請し、デジタル化させて頂くこととした。今年度予算では乾板約80枚分をデジタル化し、完成したデータDVDは梅若研能会と椋山女学園大学飯塚研究室の二箇所では保存している。今回はこれらのデジタル化された写真（以下、データは「DVD番号」-「データ番号」の形の番号+タイトルで示す）を紹介し、その撮影された背景について考察したい。なお、本稿では初世梅若実を「初世実」、初代万三郎を「万三郎」、明治30年代後半の梅若六郎を「二世実」と呼んでいる。

## 一 乾板写真が撮影された経緯

明治30年代後半は、雑誌『能楽』が創刊されるなど新興の知識人階層が能の愛好者として育ちつつある時期だった。一方、明治初年から能楽の大パトロンであった三井・三菱などの財閥も健在であった。『梅若実日記』（注1）明治37年9月7日の記事に、梅若家で稽古していた三菱財閥二代総帥の岩崎弥之助が、写真技師を派遣して《翁》の写真を撮影した記事がある。これを引用すると「一 岩崎氏より翁

万三郎 千歳六郎 三番叟三人装束にて写真を取るに付て輝弥 宇佐見被参。写真師同道。三番叟ハ山本東次郎を呼。山本へ五円出ル。新太郎 只一へ参円挨拶。」となる。この写真は岩崎の依頼で撮影、費用も岩崎負担で、呼んだ山本東次郎にはお金が渡された。この謝礼も岩崎負担と考えられる。万三郎・六郎への謝礼は書かれていない。なお写真撮影の準備をしたのが新太郎と只一だった可能性がある。この時撮影した写真と考えられるのが02-042「鈴之段」三番叟、02-043「鈴之段」三番叟、02-048左側「三番叟揉之段」右側「千歳」または「面箱」（共に誰か不明）、02-049「鈴之段」三番叟である。02-048は揉之段なので黒色尉の面はつけていない。ただし、この時期の山本東次郎は二代目の則忠だが手元に則忠の写真がないため確認が取れなかったこと、このフォルダに《翁》のシテの万三郎、千歳の二世実の写真が含まれていないので確定は出来ない。しかし02-003「鶴亀」シテ（観世清廉）のように観世清廉の写真を含むこともあり、これらの写真は梅若家の記録として撮影したものと考えられるよりも、外部の後援者が記録もしくは能の広報の為に費用を負担して撮影し、梅若家もそれに協力したと考えるのが自然だろう。後述するが、梅若家は明治36年5月に万三郎家と六郎家が家計を別にする。この頃、出稽古する弟子も両家で分けたと考えられ、（代理で行

くことはあるとしても) 岩崎弥之助は主に万三郎が担当したと考えられる。このことは、『梅若実日誌』(注2)明治37年4月29日の「○万三郎大磯の岩崎弥之助へ稽古ニ参止泊。五月五日ニ帰ル。」などの記事から知られる。乾板はまだ全体の四分の一程度がデジタル化されたにすぎず、撮影の経緯なども伝わっていないが、現段階では岩崎弥之助の依頼によって写真技師が撮影したものを、岩崎家の稽古を万三郎が担当したことから万三郎家に伝えられたと考える仮説が自然であろう。

## 二 明治30年代後半の梅若家

### 一万三郎家・六郎家の分家と初世実の形見分け

明治36年5月1日、梅若家では普請を行い万三郎家・六郎家の家計を分けて独立させた(注3)。現在の梅若万三郎家・梅若六郎家の実質的な出発点と考えられる。この一年後の明治37年4月27日、初世実(梅若実)は喜寿の祝いに親戚一同へ形見分けとしてお金を渡した。この記録から初世実が「親戚」と認識していた範囲が伺われる。『梅若実日記』(注4)の記事を引用すると、「一、自分事当年七十七歳賀の祝ニ付親戚一同江形見分に銘々へ金円ヲ遣ス。本日午後ヨリ一統を拙宅へ招く。加多美金高左之通り。金貳百円ツ、。おみね 安五郎 おつる 万三郎 六郎五人。右ハ表面ニテ。おみね おつる 万三郎 六郎四人へハ金五百円ツ、遣ス。メ金貳千貳百円也。金百円ツ、。鉄之丞 豊作 新太郎 勇治郎 亥三郎 織雄 平野又一郎 おゆき おたか おみつ おはま お千代メ十二人。内おはま お千代へハ金貳百円内々ニ遣ス。メ金千四百円也。金三十拾円。広田きく。金貳拾五円ツ、。お年 お松

お糸 お繁四人。メ金百三十円也。金拾円ツ、。お久 美雄 お竹 観世おあき 平野進メ五人。メ金五拾円。金五円ツ、。お米 春男 竜雄 静江 喜久松 真 重亥 一男メ八人。金四拾円也。右子供ハ惣領の者計リ。金高惣メ金参千八百貳拾円也。右の外人親戚ニハ無之候へ共拙者の心を以左ノ二人江遣ス。外人ニテ一噌銃二江金拾円青木只一江金五円遣ス。」となり万三郎、二世実だけでなく、鉄之丞、織雄も親戚として認識されている。またここには載らないが、観世華雪(明治37年当時は織雄)の妻となるお花にも貳百円が渡されたらしい。このことは翌28日の『梅若実日記』(注5)に「安田銀行へおみね参り昨日の筐金を皆々預る。おみね おつる 万三郎 六郎四人ハ五百円ツ、。お高 お光ハ百円ツ、。お花ハ貳百円。皆々一ケ年預。」とあることで分かる。この時期の梅若家は現在の梅若研究会(梅若万三郎家)・梅若会(梅若六郎家)・鏡仙会(観世鏡之丞家)がその妻も含めた「親戚」として交際している。しかし、万三郎家と六郎家が家計を別とし、それ以前から家計が別であった鉄之丞・織雄と一噌銃二のグループがあるので、一族の中で三つの「家」(劇団)が分かれて行く素地はすでにこの時期にあったと言える。

### 三 写真が撮影された日時

これらの乾板が撮影された日時や演目の記録はなく、明確ではない。データの「タイトル」は写真の内容から独自に付けたものである。その中で判明しているものを挙げると、01-001「鞍馬天狗」前シテは『観世華雪芸談』(注6)に掲載されている写真の原版、01-013「小袖曾我」右 ツレ二世梅若実 左シテ初代梅若万三郎は、『亀堂閑話』(注7)の口絵写真

「『小袖曾我』シテ万三郎先生 ツレ六郎先生 明治卅六年」の原版と認められる。このことからほかの乾板も明治30年代後半の撮影である可能性が高い。なお01-013「小袖曾我」については『梅若実日記』明治36年5月17日の「宅別会能」の記事(注8)に「小袖曾我万三郎／六郎」が載っており、梅若舞台での催しの当日、能の前後に装束をつけた姿の撮影かとも考えられるが、『梅若実日記』・雑誌『能楽』等の調査がまだ済んでいないのでこれも可能性を示すにとどめたい。

#### 四 完成データ一覧

以降にこれまでの完成データリストを示す。DVD 1には01-001(以降01-は省略)「鞍馬天狗」前シテ(観世紅雪『観世華雪芸談』18頁写真の原版と認められる。)、002「景清」シテ、003「井筒」後シテ、005「蟻通」前ジテ、006仕舞(二世梅若実)、008「熊野」右がシテ、左ツレ、010「素袍上下出立」(二世梅若実)、012「厩橋舞台正面図」、013「小袖曾我」(右ツレ二世梅若実 左シテ初代梅若万三郎『亀堂閑談』口絵「『小袖曾我』シテ万三郎先生 ツレ六郎先生 明治卅六年」写真の原版と認められる)、014「長絹大口出立」、016「海士」前シテ、017「石橋」後ジテ(赤頭)、018「石橋」後ジテ(大獅子か師資十二段之式)(白頭)、019「石橋」後ジテ(白頭)、020「石橋」か「小鍛冶」前シテ、021「松虫」前シテとツレ・トモ、022「初世梅若万三郎仕舞」、023「朝長」前シテとツレ・トモ、024「着流女出立」、025「土蜘蛛」頼光(二世梅若実)、027「海士」(左側前シテ、左側子方は不明)、028「着流女出立」、031「放下僧」(右側後シテ二世梅若実、左側後ツレ不明)、031「弓矢立合」(左から二世実、初世万三郎)、032「通小町」(右

側後ツレ、左側後シテ)、033「通小町」後シテ、034「着流尉出立」、035「春日龍神」前シテ、036「春日龍神」後シテ、038「放下僧」(右側前シテ 二世梅若実 左側前ツレ不明)、040「安達原」前ジテ、041「安達原」後ジテ、042「鉢木」前シテ(観世紅雪)、043「鉢木」後シテ(観世紅雪)、044「千手」シテか?、045「恋重荷」(右側ツレ、左側前シテ)、047「籠太鼓」シテ、048「小袖曾我」(左側ツレ二世実、右側シテ初世万三郎)、049「富士太鼓」(右側子方不明、左側後シテ)、050「着流女出立」

DVD 2には、02-001(以降02-は省略)独吟二世実、002仕舞「忠度」二世実、003「鶴亀」シテ(観世清廉)、004「羽衣」シテ、005「着流女出立」、006「鞍馬天狗」子方(誰か不明)、007「融」後ジテ、008「石橋」後ジテ(白頭)、009「巴」後ジテ、010「融」後シテ、011「満仲」(中央初世梅若万三郎、左右子方誰か不明)、012「船弁慶」前シテ、013「田村」(右側ワキ誰か不明、左側前シテ)、014「融」前シテ、015「融」後ジテ、017「石橋」後シテ(赤頭)、019「船弁慶」(右側子方、左側ワキ 二人とも誰か不明)、020「船弁慶」(右側子方、左側ワキ 二人とも誰か不明)、021「船弁慶」後シテ、024「着流尉出立」、025「海士」子方?(誰か不明)、026「石橋」後シテ(赤頭)、027「山伏出立」(誰か不明)、029「着流尉出立」、030「着流尉出立」、031「男神出立」「女郎花」後ジテ?」(左側で撮影を見ている人物は誰か不明)、032「着流尉出立」「石橋」もしくは「忠度」「小塩」前ジテ、034「妃出立」、035「鞍馬天狗」もしくは「善界」「車僧」などの後ジテ、036「松風」(右側シテ、左側ツレ)、037「松風」シテ、038「恋重荷」後ジテ、039「着流女出立」、040「菊慈童」もしくは「天鼓」シテ、041「小督」シテ(二世梅若実)、042「鈴

之段」三番叟、043「鈴之段」三番叟、044「源氏  
供養」後ジテ、045「羽衣」シテ、046「船弁慶」  
前シテ、047「野宮」もしくは「半部」「夕顔」な  
ど(右側ワキ誰か不明、左側後シテ)、048左  
側「三番叟揉之段」(右側「千歳」または「面箱」。  
共に誰か不明)、049「鈴之段」三番叟、050「屋  
島」もしくは「田村」後シテ。

### まとめ

明治30年代の能楽の写真は、現在ほとんど  
残っていない。今回紹介した梅若万三郎家の  
乾板は梅若家に所属した能楽師・面・装束が  
分かる点で、明治期の能を研究する際に非常  
に価値の高い画像資料であると言える。今後  
まだデジタル化されていない分の乾板のデジ  
タル化を進めるとともに、『梅若実日記』や『能  
楽』等に見られる梅若舞台での催しの記録・  
図版との照合などから、これらの乾板の撮影  
された日時・演目等を特定して行きたい。

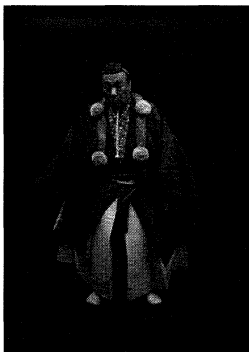
### 注

- 1 『梅若実日記』第七巻 梅若六郎・鳥越文蔵  
監修 梅若実日記刊行会編 八木書店  
2003年12月発行 152頁
- 2 注1 112頁
- 3 注1 22頁
- 4 注1 111 - 112頁
- 5 注1 112頁
- 6 『観世華雪芸談』沼 艸雨編集 檜書店  
1960年3月発行 18頁写真
- 7 『能楽随想亀堂閑話』(復刊) 十二世梅若  
万三郎 玉川大学出版部 1997年5月発  
行 口絵写真
- 8 注1 26頁

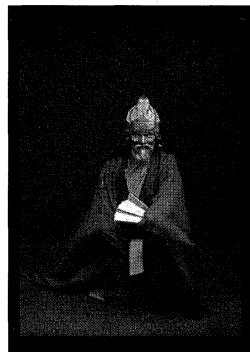
### 補記

貴重な乾版のデジタル化を許可頂きました当  
代梅若万三郎先生、仲介の労を取ってくださ  
いました梅若研能会八田達弥先生に心より感  
謝いたします。本稿は平成23年度科学研究費  
基盤研究(C)「東海地域近世・近代能楽資料  
の収集・整理とデータベース化」(課題番号:  
23520256)による成果の一部となります。

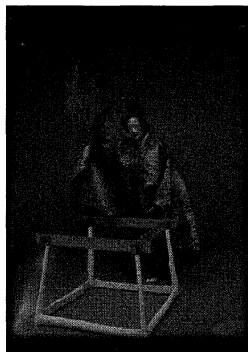
### DVD1



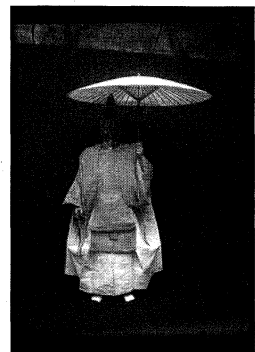
01-001



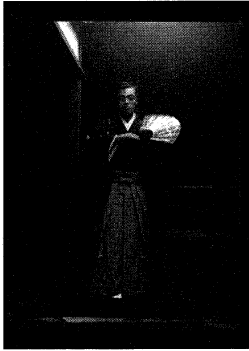
01-002



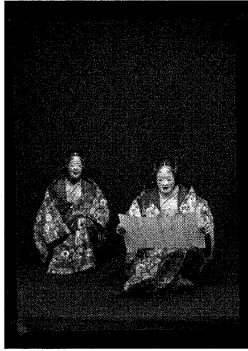
01-003



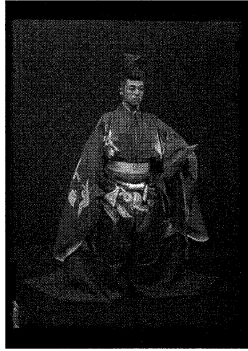
01-005



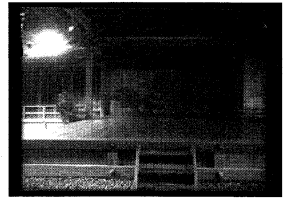
01-006



01-008



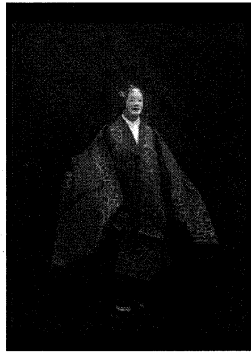
01-010



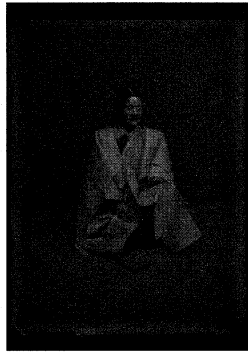
01-012



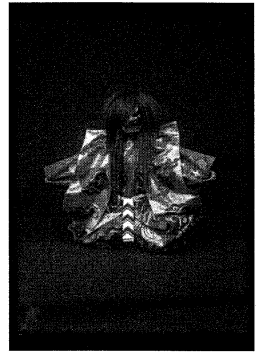
01-013



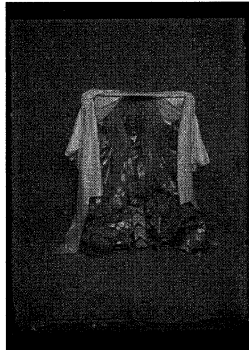
01-014



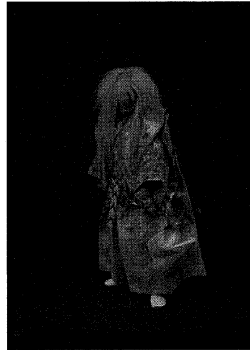
01-016



01-017



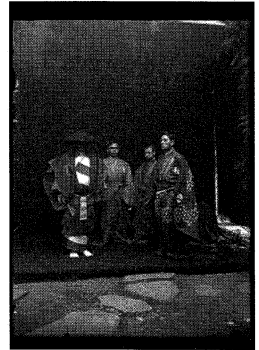
01-018



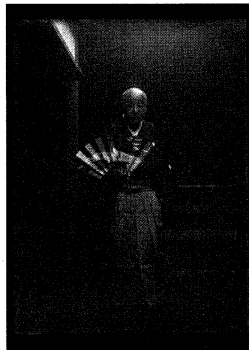
01-019



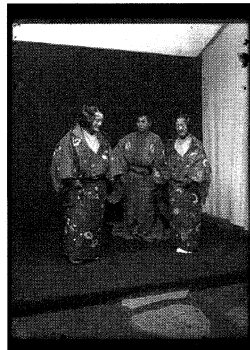
01-020



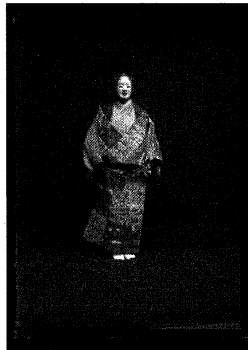
01-021



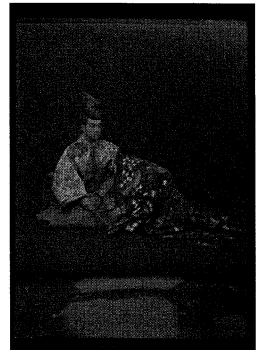
01-022



01-023



01-024



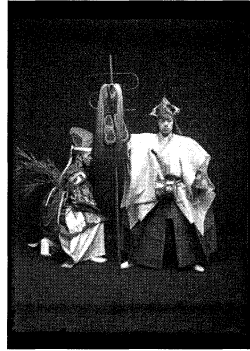
01-025



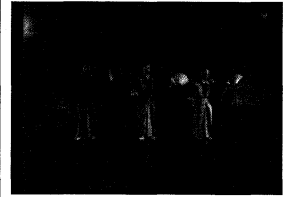
01-027



01-028



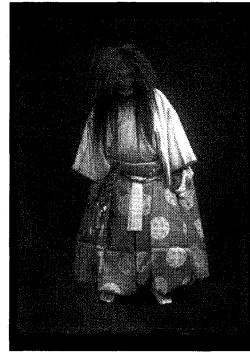
01-030



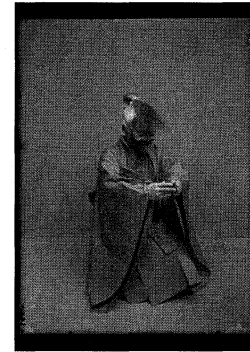
01-031



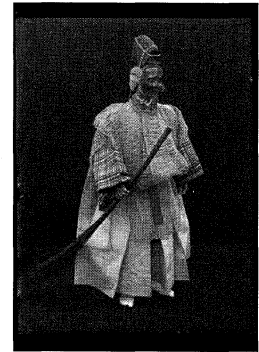
01-032



01-033



01-034



01-035



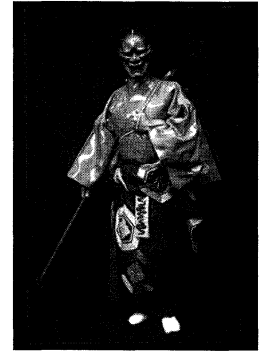
01-036



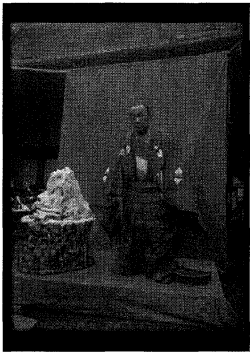
01-038



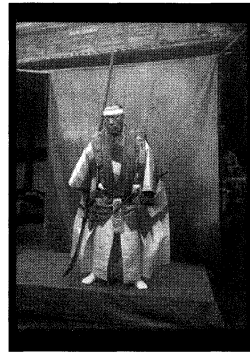
01-040



01-041



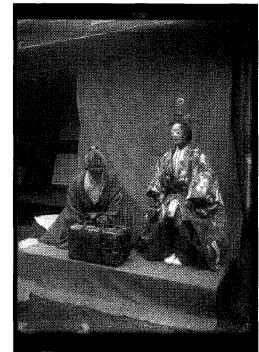
01-042



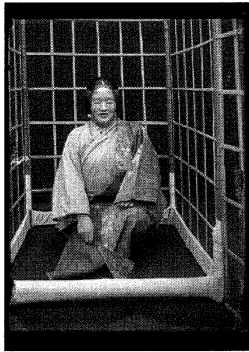
01-043



01-044



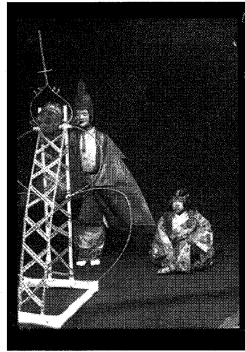
01-045



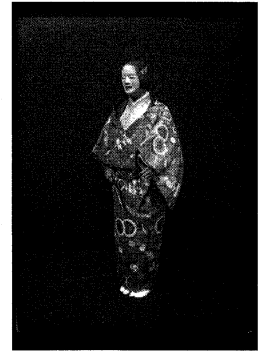
01-047



01-048

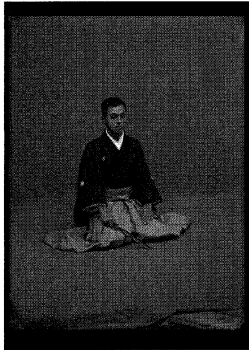


01-049



01-050

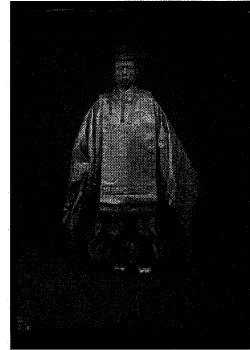
DVD2



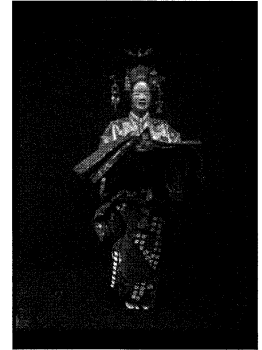
02-001



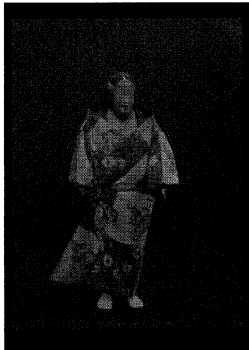
02-002



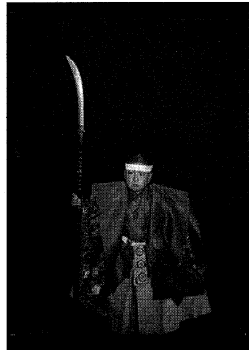
02-003



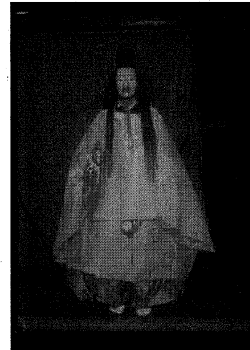
02-004



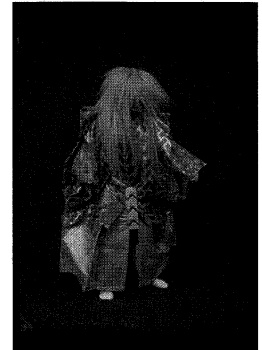
02-005



02-006



02-007



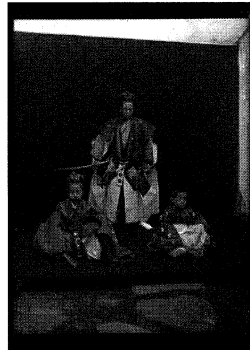
02-008



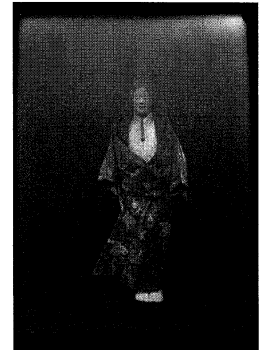
02-009



02-010



02-011

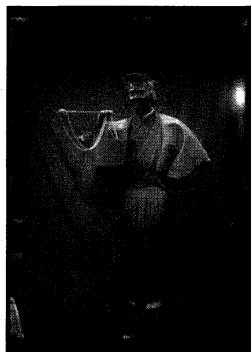


02-012





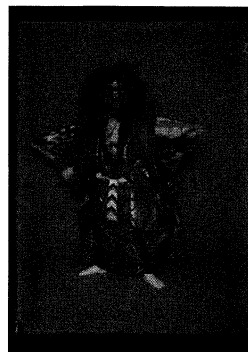
02-013



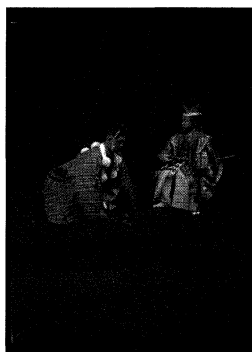
02-014



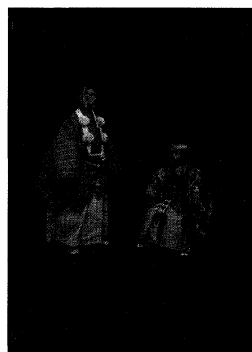
02-015



02-017



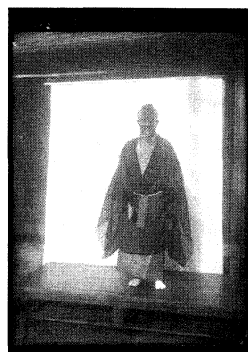
02-019



02-020



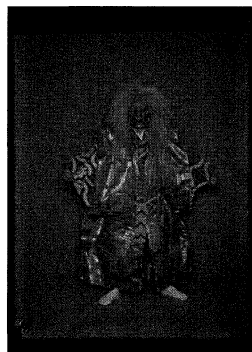
02-021



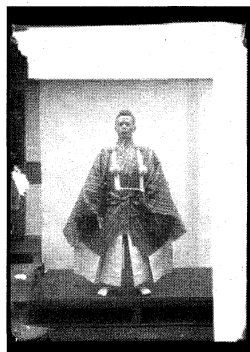
02-024



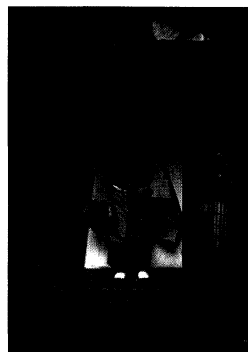
02-025



02-026



02-027



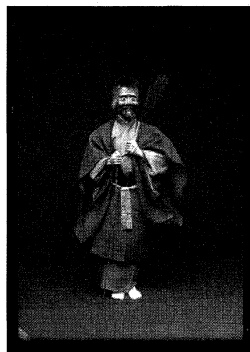
02-029



02-030



02-031



02-032

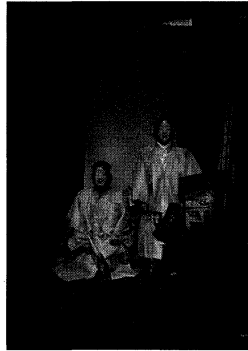


02-034

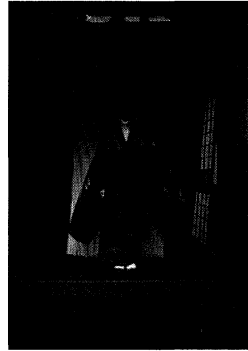




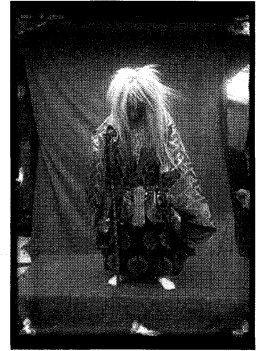
02-035



02-036



02-037



02-038



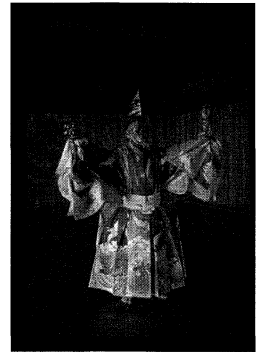
02-039



02-040



02-041



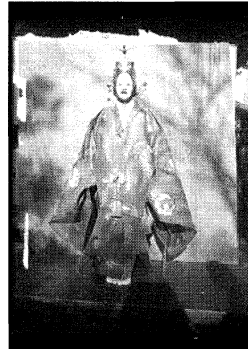
02-042



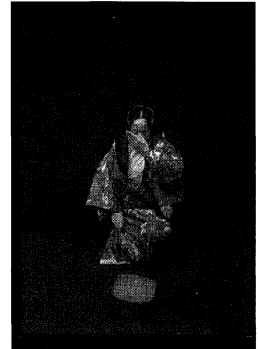
02-043



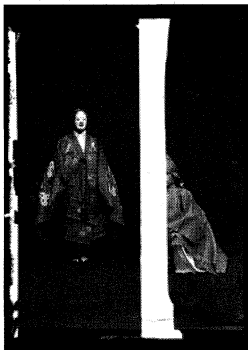
02-044



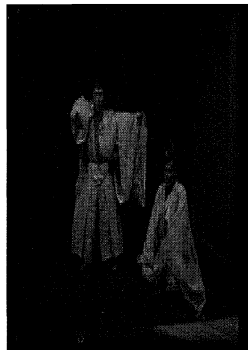
02-045



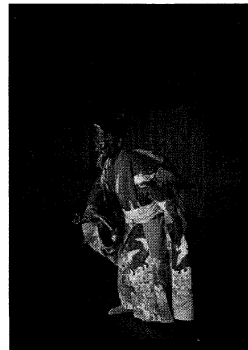
02-046



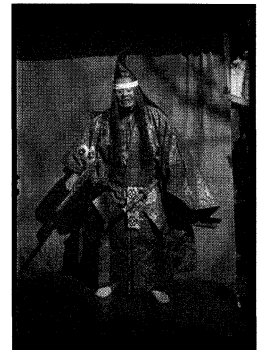
02-047



02-048



02-049



02-050